

「イチイの実の不思議」

イチイ（欅または一位）という常緑針葉樹があります。年輪が緻密で、材が非常に堅く狂いがないので、家具や木口版画（こぐちはんが）を彫る材料として重宝されます。

針葉樹はマツやメタセコイアのように、「球果」とよばれる果実をつけ、その鱗片のすき間に種子ができます。マツの種子は食用になりますが、球果（松ぼっくり）そのものは、食欲をそそるような姿・色ではありません。ところがイチイは針葉樹のくせに（針葉樹なのに）、真っ赤でおいしいような実をつけるのです。



「イチイの実」 *Taxus cuspidata*

ブルーベリーかユスラウメのようにみずみずしく、いかにも針葉樹らしくない実です。左奥にボケて写っているのが未成熟な実で、この段階ではドングリのような形状です。（北軽井沢・大学村）

イチイの実は、未成熟な段階では、シラカシのドングリ（櫂の実）のように、帽子をかぶったように見えます。その帽子の部分（仮種皮といいます）がどンドンせり出してきた「多肉質」になり、種子全体を包み込むようになります。それがこの真っ赤な実です。甘い味で、そのまま食べられます（ただし種子には毒があります）。もちろん鳥も好んで食べ、種子の拡散に役立ちます。同じ針葉樹でも、さまざまな種子の拡散方法があることに、驚かされます。